

<MC>大村市産業支援センターがあって宮本様がいらっしゃることが大変心強いですね

<石川>本当にそうです。結構見た目がカチッとされていて、キャリアウーマンみたいな感じなので、最初の印象がいや、ちょっとこれが噂のキャリアウーマンか、声かけづらいなって思いました。それが喋ってみたら、すごくかわいらしいギャップがあって、それがまた魅力的で本当に気さくで、あっすみません。

<宮本>代表になれる方は、その方しか見られない、見えてないビジョンがあるんですね。そのビジョンに寄り添うことしかできないので、それを大切に一緒にしていこうと思っています。しかしキャリアウーマンはちょっと穴があったら入りたいぐらいです。

<MC>本当にココロそ心強く、お互いがリスペクトし合っているからこそ、いい方向に進めていけるのですね。大きな一歩が踏み出せるのですね。

<石川>本当にそう思います。信頼関係がないと深い話なんてできません。女性なので特に周り専門的な話ができる方ってなかなかいないので、本当にありがたいです。

<MC>先ほど宮本様の言葉でビジョンが大事という言葉がありましたが、石川様もビジョンっていうのは先に大きく固まっていたのですか？それとも話しながら見えてきたんでしょうか？

<石川>そうですね、大まかにはあったんですけど、でもやっぱり自分でいろいろやりたいことがありすぎて多分まとまらなかったと思います。それを拾ってまとめてくださって、こういう進め方がいいと思います、みたいな具体的にもアドバイスをいただきました。

<MC>今はどのようなビジョンに固まりましたか？

<石川>そうですね。定款の中に掲げる3本柱があって、一つは里山とか自然の環境保全。2番目が、コミュニティ拠点を中心とした地域の振興、活性化。3番目は、特に地域における文化・芸術・音楽・歴史振興をしていこうというかと考えております。

<MC>今は大村市にも興味を持ってくださっている状況なのでしょうか？

<石川>そうです。大村では未だにその炭焼きもされている方とかいらっちゃって、でも後継者問題とかがあります。そういう文化って一旦廃れると、なかなか復活するのが難しい。私は県外なのでよく知らないことが多いんですけど、長崎は歴史的にもとっってもいろんな面があって、本当に知れば知るほど興味深くて、そういうことも自分が学びながら皆さんとともに広げていけたらいいなというふうに思っています。